

吐水口引出式 シングルレバー混合水栓

施工の前に






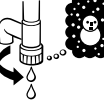


安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

- 注意** ... 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
- ⚠ ... 「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)
- ⊘ ... 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)
- ⊘ (禁止)
- 🔧 ... 「分解してはいけません!」
- ⊘ (分解禁止)
- ❗ ... 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)
- ❗ (指示)

注 意

⊘ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てやけどをする恐れがあります。	
⊘ (禁止)	給湯器の給湯温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	【寒冷地用の場合】水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
❗ (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 寒冷地仕様の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生 の恐れがあります。	
❗ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
❗ (指示)	フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生 の恐れがあります。	

本製品の仕様と使用条件

使用最高温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水※1
使用環境温度	【一般地用】 0～40℃ 【寒冷地用】 -20～40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
給水(給湯)接続	G1/2		
圧 力 条 件	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水圧)	給水圧力≧給湯圧力	※2
取 付 条 件	水栓取付穴：φ34～φ38mm、カウンター厚：5～30mm		

- ※1: 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2: 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.08MPa（流動圧）※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最 高 圧 力	0.75MPa（静水圧）

- 測定条件は次の通りです。
- レバーハンドルは全開です。
 - 給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
 - 給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
 - ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

LF-J345SY型

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa（流動圧）
最 高 圧 力	0.75MPa（静水圧）

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力（0.20～0.34MPa程度）に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

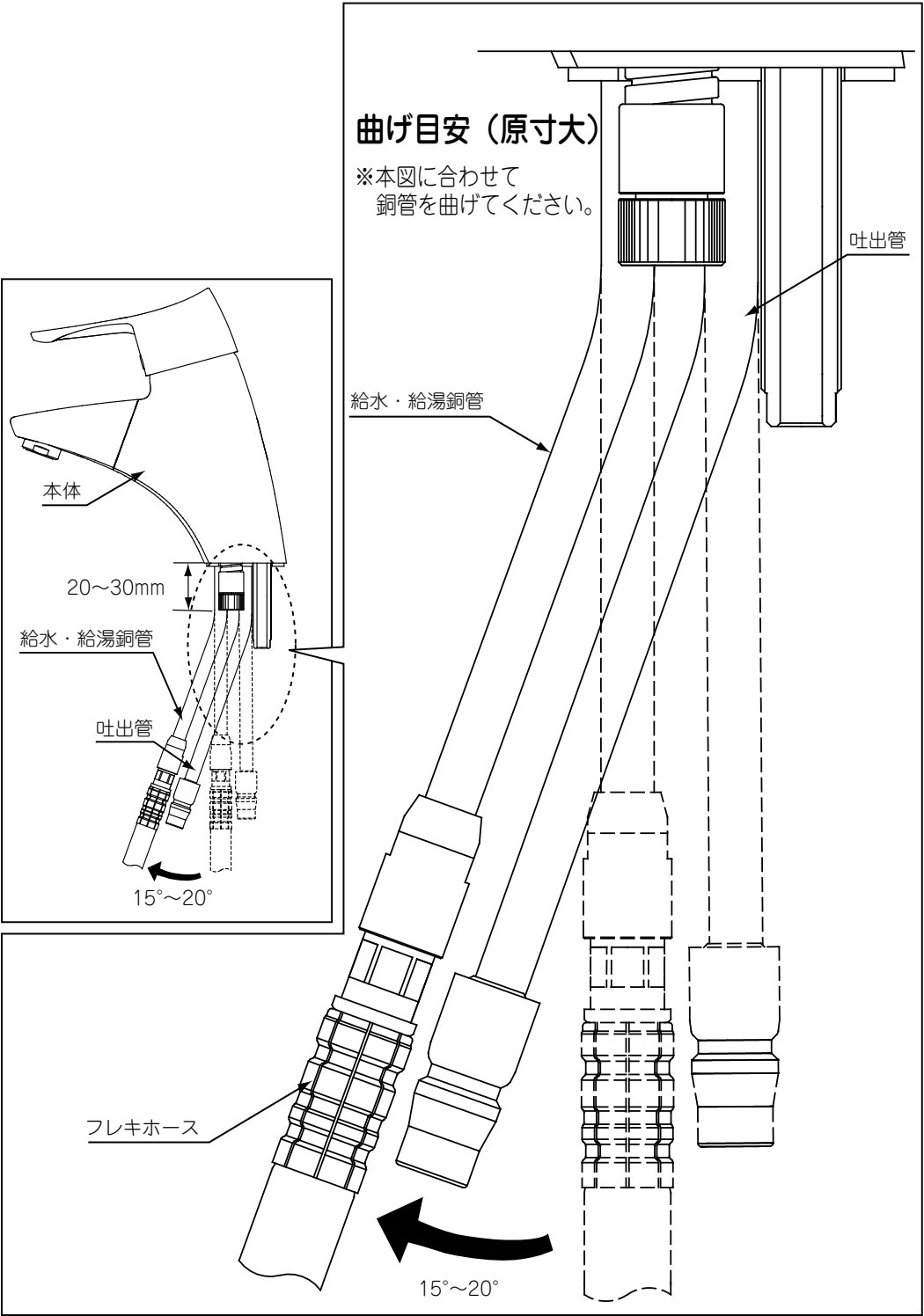
- 取付にはプラスドライバー、スパナ（対辺23）、プライヤー、専用工具KG-5（対辺17）または市販のソケットレンチ（呼び17）が必要です。

止水栓と点検口を設けてください

- 取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓（別売）と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために**流量調節をしてください。**とくに水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

その他の注意点

- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水などの異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱・取付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 必ず **配管中の異物を完全に洗い流してください。**



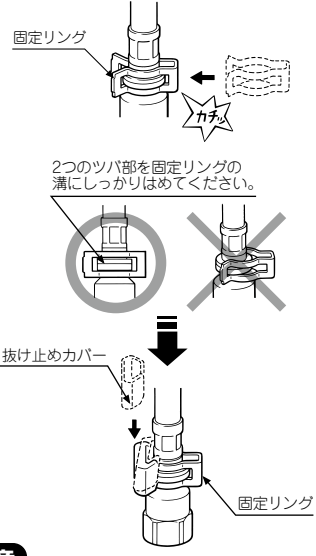
3. 固定リング、抜け止めカバーを、確実にはめ込む。

注意

確実にはめ込んでください。
※しっかりはめ込んでいないと、
抜け止めカバーが外れて、漏水
や固定リングでケガをする恐れ
があります。

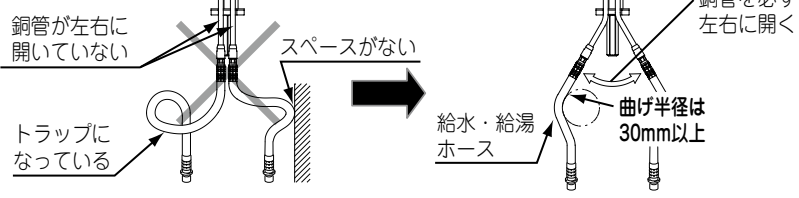
確認

確実にはめ込んでいる
こと。
※給水・給湯ホースを矢
印の方向に引っ張り、
確認する。



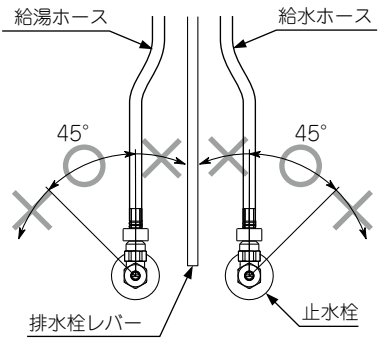
注意

ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上のこと。ホースの曲げ半径が小さい場合は銅管を
曲げて調節すること。



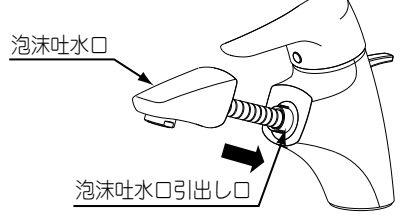
〔給水・給湯の取出位置によって止水栓を垂直に取付けできない場合〕

※止水栓の向きを図のように外側に
約45°以内で傾けて、給水・給湯
ホースが無理に曲がらないように
調節してください。
内側に傾けると、排水栓レバーが
ホースと接触し重くなる場合があり
ますのでご注意ください（ポッ
プアップ式のみ）。



4. ホースとカプラー式ソケットの接続

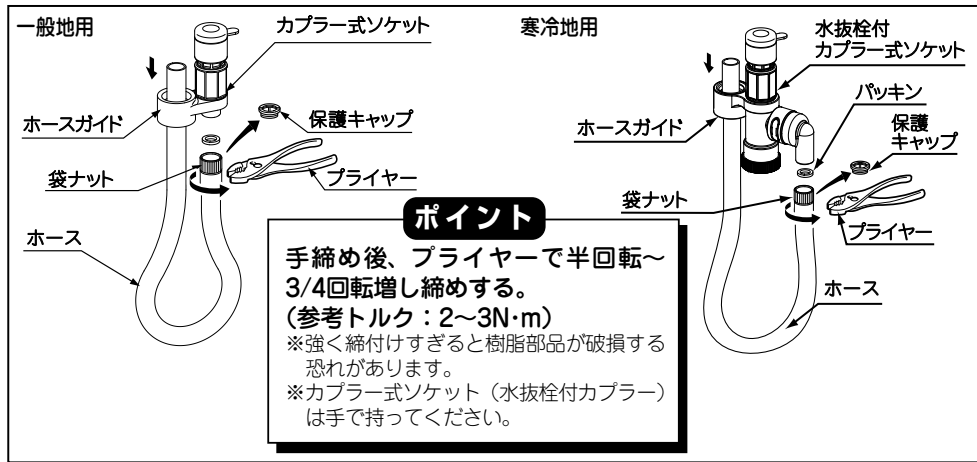
1. 泡沫吐水口を泡沫吐水口引出し口へ
納める。



2. ホースの保護キャップを外し、泡沫
吐水口のホースをホースガイドに通
し、カプラー式ソケットに固定する。

注意

ホースを取り付けるときは、パッキ
ンがあることを確認してください。
※漏水する恐れがあります。



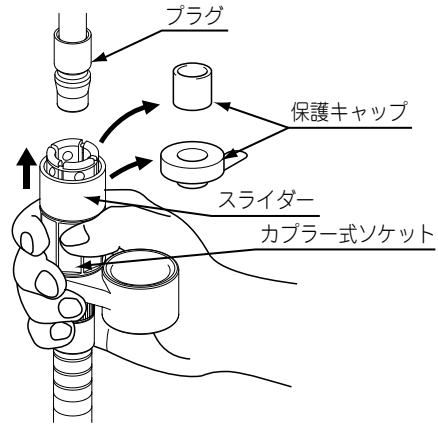
3. カプラー式ソケットとプラグの保護
キャップを外し、カプラー式ソケッ
トとプラグに差し込む。

注意

ホースにねじれがないようにしてください。
※泡沫吐水口が引き出せなくなる恐れがあります。

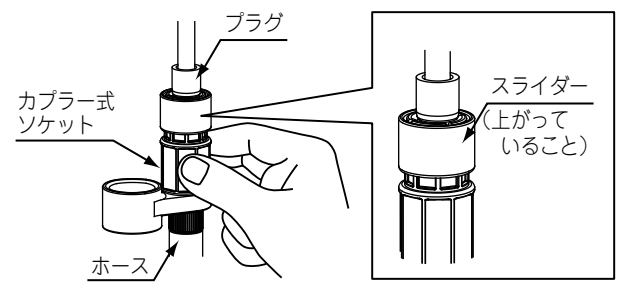
ポイント

カチッと音がするまで差し込む。

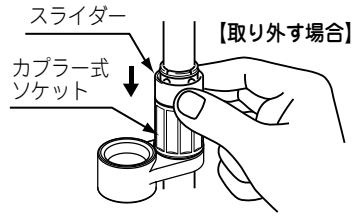


確認

- ホースやカプラー式ソケッ
トを引っ張っても、スライ
ダーがプラグから外れない
こと。
- スライダーがきちんと上
がっていること。



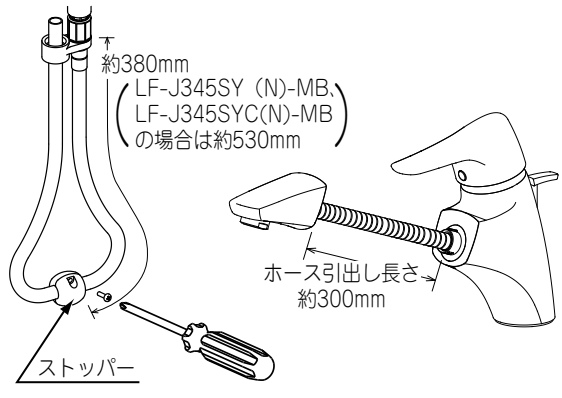
カプラー式ソケットを外すとき
は、スライダーを下げながら、
カプラー式ソケットを下に引っ
張る。



4. 泡沫吐水口を引出し口に納め
た状態で、ストッパーを右図
の位置に取り付ける。

ポイント

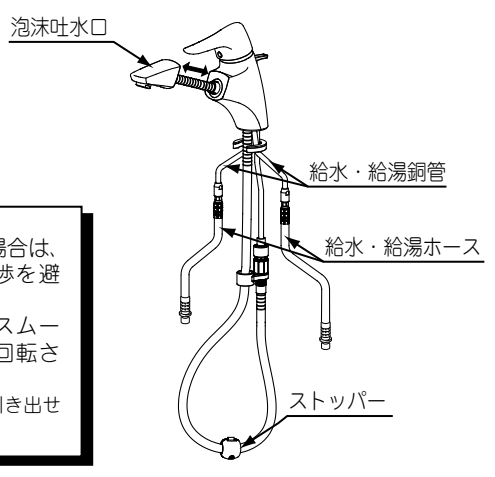
- ホースをいっぱいまで引き出した
とき、止水栓などに引っ掛かる場
合は、ストッパーの位置を調節す
る。
- ホース引出し長さは300mmを目
安とする。



5. 泡沫吐水口を出し入れし、ス
トッパーが給水・給湯ホース
や他の配管等と干渉せずにス
ムーズに上下に動くことを確
認する。

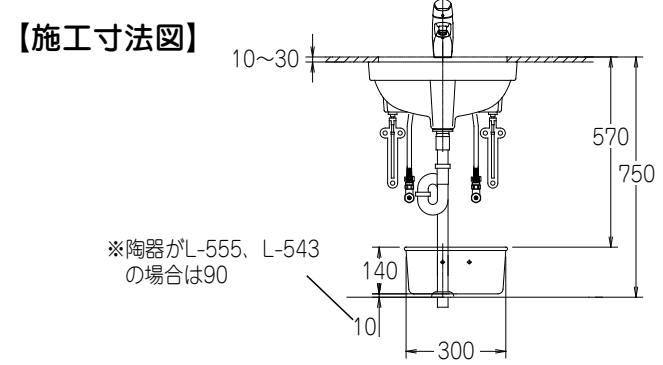
注意

- ストッパーが給水・給湯ホースと干渉する場合は、
給湯・給水銅管を軽く曲げてホースの干渉を避
けてください。
- ホースが他の配管等と干渉し、ホースがスム
ーズに上下しない場合は、ホースガイドを回転さ
せて、ホースとの干渉を避けてください。
※給水・給湯ホースと干渉すると、泡沫吐水口が引き出せ
なくなる恐れがあります。

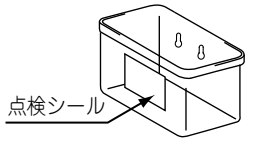


5. 水受けタンクの取付け (LF-J345SY(N)の場合)

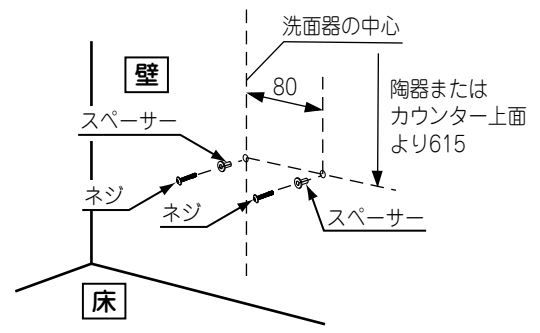
※LF-J345SY(N)-MB、LF-J345SYC(N)-MBの場合、
化粧台に同梱の施工説明書をご覧ください。



1. 点検シールを水受けタンクに貼り付ける。



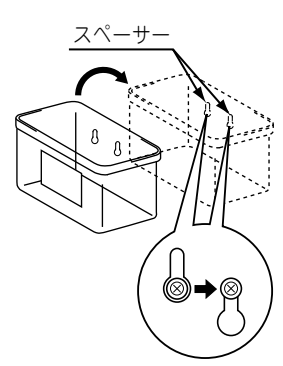
2. スペーサーを右図の背板の
キャビネットの指定位置へ
手で固定し、スペーサーの
穴の部分へねじを入れ、ね
じ頭部がスペーサーに当た
るまで差し込む。



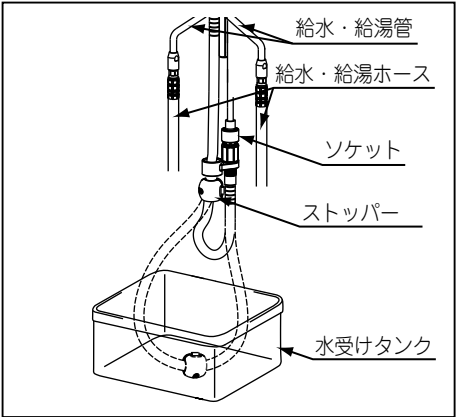
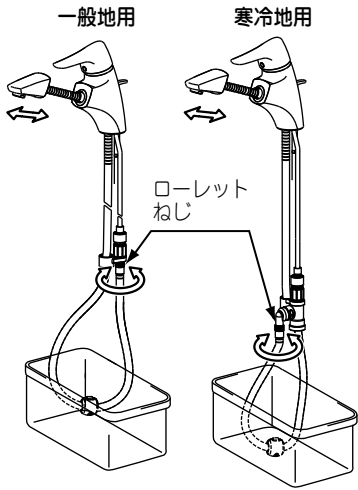
3. スペーサーにタンクの丸い穴の部分を入れ、
タンクを下ろして凸部に引っ掛けて設置
した後、水受けタンクの位置が正しいか、
上記の施工図で確認する。

注意

必ず施工寸法どおりに取付けてください。
※施工寸法の位置が正しくない場合、ホースが水受けタ
ンクに引っかかり、泡沫吐水口が泡沫吐水口引出し口
に納まらない恐れがあります。



4. 泡沫吐水口を出し入れし、ホースが水受けタンクにスムーズに納まることを確認する。



注意

●ホースがねじれた状態で水受けタンクに納めないでください。
※ホースがねじれた状態で水受けタンクに納めると、泡沫吐水口出し入れ操作の時にタンクからホースが出てしまう恐れがあります。その場合は、右図のローレットねじを回し、ホース全体のねじれを戻した後、プライヤーで締めてください。

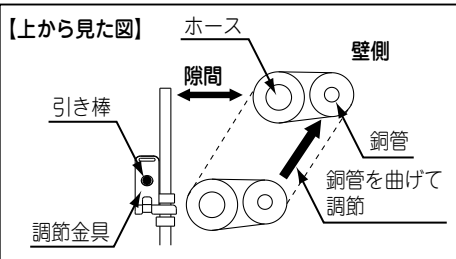
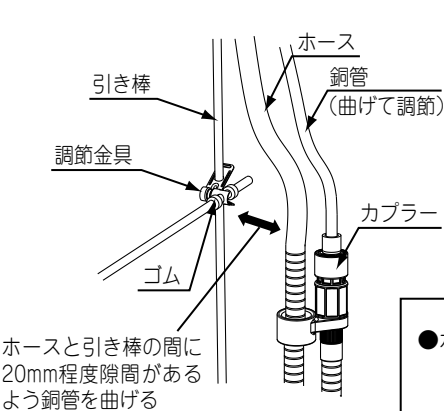
6 排水金具の接続

【LF-J345SY(N)-MBの場合】
リリースと排水金具を接続する。
※接続方法は、化粧台に同梱の施工説明書をご覧ください。

【LF-J345SY(N)の場合】
引き棒と排水金具を接続する。
※接続方法は、排水金具に同梱の施工説明書をご覧ください。

7 引き棒の調節金具とホースの取り合いの調節 (LF-J345SY(N)の場合)

引き棒・ホース・銅管が必ず下図のような取り合いになるよう施工する。
カプラー部の銅管を曲げてホースと調節金具が干渉しないよう調節する。



注意

●ホースと調節金具に必ず隙間を開けてください。
※調節金具とホースが引っ掛かり、泡沫吐水口が引き出せなくなったり、排水できない恐れがあります。

●銅管は壁側に曲げてください。
※泡沫吐水口出し入れ操作の時に水受けタンクからホースが出てしまう恐れがあります。

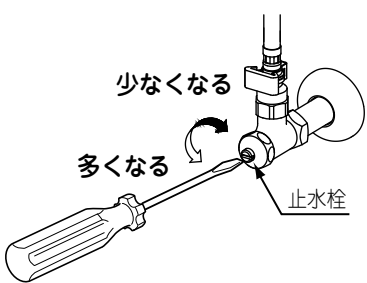
施工後の調節

1 流量の調節

水栓の機能を十分発揮させるため、水圧が高い場合は湯と水の吐水量が同じになるよう水側の止水栓（別売）を絞って調節する。

確認

最終点検時は配管接続部の水漏れ点検を十分に行なうこと。



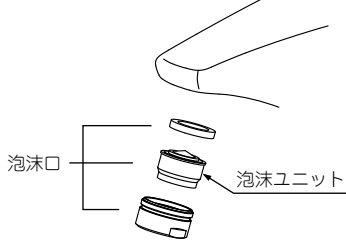
2 泡沫口の掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、泡沫口内の泡沫ユニットの掃除を、以下の要領で行ってください。

1. 泡沫口の紛失を防ぐため、排水栓を閉じる。または、排水口を布等でおおう。
2. 工具で泡沫口を回して泡沫ユニットを取り外し、水で掃除する。
3. 泡沫口部を工具でしっかり右に回して取り付ける。

確認

泡沫口の取り外しは直接工具を掛けますと、泡沫口をキズつける場合があります。必ず、布などを当てて工具を掛けてください。



ポイント

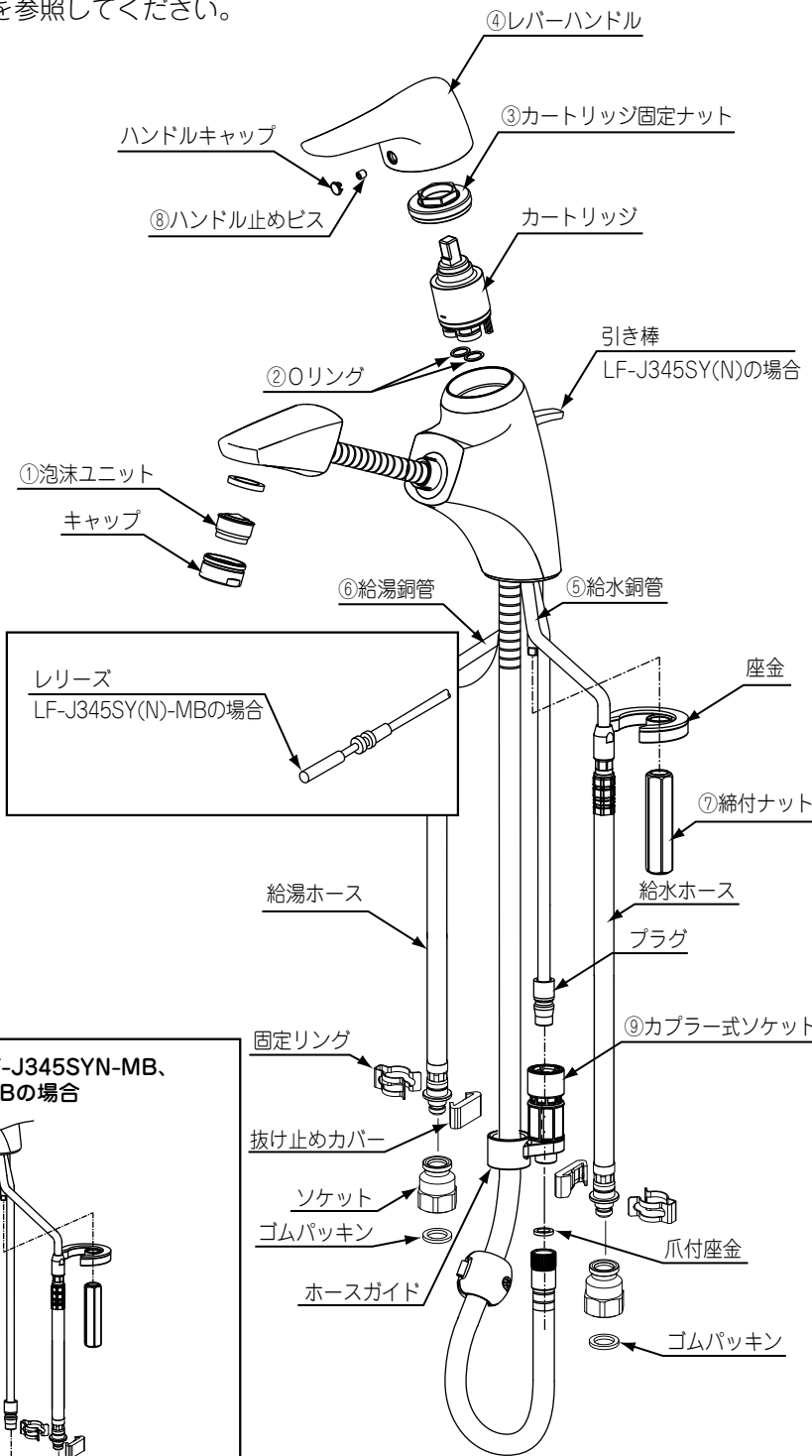
取付前に、乾いた布等で、泡沫口部に付着した水を拭き取る。
※泡沫口部が濡れていると、手が滑り、締付け不足になる恐れがあります。

引渡前の確認

お客さまに引き渡すまえに以下のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？	—	「本製品の仕様と使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	止水栓は十分開いているか？	—	止水栓を十分開く。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか？	③	カートリッジ固定ナットを締める。 ※締めすぎるとレバーハンドルが重くなる ことがありますので注意してください。
ハンドルが右側に回らない	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。 (施工完了図参照)
	ハンドルの操作位置は正しいか？	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。 (施工完了図参照)
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	—	「本製品の仕様と使用条件」の項参照。
	流量調節は良いか？	—	「流量の調節」の項参照。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
泡沫吐水口がスムーズに引き出せない	給水・給湯銅管が、左右に開かれ、壁側に押されているか？	⑤⑥	「給水・給湯ホースと銅管の調節」の項参照。
	引き棒の調節金具とホースが干渉していないか？	—	「引き棒の調節金具とホースの取り合いの調節」の項参照。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	⑦	締付ナットをしっかりと締める。
レバーハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	⑧	ハンドル止めビスをしっかりと締める。
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、配管等と干渉していないか？	⑨	「ホースとカプラー式ソケットの接続」の項参照。

※点検箇所は下図を参照してください。



※LF-J345SYN、LF-J345SYN-MB、LF-J345SYCN-MBの場合

